



ボッシュ、コロナ禍においても好業績を維持 カーボンニュートラルを実現 – 2020 年は予想を上回る業績 を達成

2021 年 2 月 4 日
PI11261 RB Ka/Hg

- ▶ 売上高: 716 億ユーロ / 支払金利前税引前利益: 19 億ユーロ
- ▶ ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会会長フォルクマル・デナー: 「持続可能性と AI・IoT が今後の事業の鍵を握ります」
- ▶ ロバート・ボッシュ GmbH 財務担当取締役シュテファン・アーセンケルシュバウマー: 「徹底したコスト削減と競争力の強化を図ることで、有望な新事業分野の拡大に向けた健全な財務基盤を構築しています」
- ▶ 持続可能なモビリティ: 2020 年の電動化向けパワートレインの受注総額は 75 億ユーロ相当
- ▶ 成長する AI・IoT 市場: ネットワーク対応が可能な電動工具、家電製品、ヒーティングシステムの販売数が 1,000 万台を達成 / ボッシュのエレクトロニクス製品の 90% 以上がネットワーク化機能を装備
- ▶ 2020 年春からボッシュの全拠点がカーボンニュートラルに。現在、第三者による監査を実施中

シュトゥットガルト(ドイツ) - ボッシュ・グループは 2020 年、新型コロナウイルス危機と自動車生産の減少による影響を受けながらも、好業績を達成しました。グローバル規模で革新的なテクノロジーとサービスを提供するボッシュは、当初予想を上回る成果をあげました。暫定決算報告¹によると、支払金利前税引前利益は約 19 億ユーロで、推定支払金利前税引前利益率は約 2.5% でした。リストラ費用調整後の推定支払金利前税引前利益は約 33 億ユーロ、利益率は約 4.5% でした。ボッシュ・グループの売上高は 716 億ユーロで、為替調整後では前年比 4.4% 減となりました。暫定決算報告の発表に際して、ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会会長であるフォルクマル・デナーは次のように述べました。「新型コロナウイルス感染症のパンデミック(世界的大流行)の影響にもかかわらず、好業績を達成することができました。これは何よりも、社員の並々ならぬ努力の賜物です」。デナーはまた、ボッシュの広範な事業多角化とグローバル展開も真価を発揮していると付け加えました。「持続可能なモビリティ、IoT(モノのイン

¹ 内部報告に基づく。

ターネット)、AIなど、将来的に重要となる分野に投資することで、イノベーションにおけるリーダーシップを一層高めています」。特にボッシュは、AIとIoTを組み合わせたAI・IoTが、数十億ドル規模の市場で成長のチャンスをもたらすと考えています。「私たちはAI・IoTのリーディングカンパニーになることを目指しています」とデナーは述べています。「幅広い分野の知識と、エレクトロニクスとソフトウェアの広範なノウハウにより、私たちはどの企業よりも有利であると自負しています」。

決然と行動 – 潤沢なフリーキャッシュフローで財政的余裕を確保

ボッシュの売上高は、多くの国や産業に打撃を与えた春のロックダウン(都市封鎖)の影響で落ち込みましたが、2020年後半には大きく回復しました。ボッシュの財務担当取締役兼取締役会副会長であるシュテファン・アーセンケルシュバウマーは次のように述べました。「危機にもかかわらず、2020年の事業展開には全体として非常に満足しています。私たちは売上高の減少を受け、有望な新事業分野をおろそかにすることなくコストと資本支出を調整するために迅速に行動しました」。その結果、ボッシュのフリーキャッシュフローは約50億ユーロと過去最高額となり、危機的状況下でも十分な財政的余裕を確保することができました。資本支出比率は約5%で、ボッシュは前年と比べて約10億ユーロの現金を節約することができました。

クライメートニュートラルとeモビリティで持続可能な成長を実現

ボッシュは危機下においても、持続可能な事業手法に力を注ぎながら、引き続き将来重要な分野に戦略の重点を置いています。2020年春には、パンデミックに屈することなく、世界400カ拠点をすべてで[クライメートニュートラル](#)を達成するという大きな節目を迎えました。「私たちは約束を守りました。独自の試算では、ボッシュは2020年春に世界的に事業展開する製造企業として初めてカーボンニュートラルを達成しました。計画よりも早く、カーボンオフセットの割合も低く、そして費用対効果は高くなりました」とデナーは述べ、現在は第三者による監査を実施中であると説明しました。デナーはまた、2030年までにサプライチェーン全体でCO₂排出量を15%削減するというボッシュの次なる目標も再確認しました。

ボッシュはクライメートニュートラルを達成することで得られた知見を、顧問会社である[ボッシュ・クライメートソリューションズ](#)を通じて他社に提供しており、フロイデンベルク、ハンスグローエ、ケーラーペーパーグループなどが顧客として名を連ねています。「私たちの新しいアドバイザリーサービスは、企業がクライメートニュートラルを実現するための道を開くと同時に、新たな成長分野を開拓します」と、デナーは述べています。そうした理由から、ボッシュは未来のモビリティに向けた技術的ソリューションを新しく改善することに注力しています。ボッシュは持続可能なモビリティの実現に向け、累計50億ユーロをパワートレインの電動化に投資してきたと、デナーは説明します。そして、今年には燃料電池を含むeモビリティソリューションの開発に、前年比約40%増となる7億ユーロを投じる予定です。「近い将来、eモビリティはボッシュの中核事業のひとつになるでしょう。私たちは、電気自動車や燃料電池車向けeモビリティのマーケットリーダーを目指しています」と、デナーは述べています。「ボッシュはすでに、eバイクからトラックまで、どの企業よりも幅広いeモビリティの製品ポートフォリオを揃えています」。この

分野でポッシュが行ってきた多額の先行投資が実を結んでおり、現在、パワートレイン電動化事業は市場の2倍のスピードで成長し、数十ユーロ相当まで拡大しています。2018年以降、ポッシュは90件のパワートレインの電動化プロジェクトを獲得していますが、このうち75億ユーロ相当の30件は、昨年1年で獲得したものです。現在、世界中で250万台の車両に、ポッシュの電動パワートレインコンポーネントが搭載されています。

構造変化には円滑な移行が必要

デナーによると、自動車業界の構造変化と、間もなく導入される欧州排出ガス規制Euro7により、自動車事業は厳しい過渡期を迎えています。「来るeモビリティに対して、ポッシュは何年も前から積極的に推進しています。しかし、そのための先行投資は既存のパワートレイン事業から調達しなければなりません」とデナーは述べ、この変革の間、できるだけ多くの従業員を確保しておくためには、移行が円滑に行われることがポッシュをはじめとする企業にとって重要だと付け加えました。「電気自動車は、再生可能エネルギーを燃料とすればカーボンニュートラルであり、ディーゼル車やガソリン車も、合成燃料で走れば同様です。近く導入されるEuro7規制によって、地球温暖化を緩和するこのチャンスを逸することは避けるべきです」。現在でも、最新のディーゼルエンジンやガソリンエンジンは、もはや都市の大気環境に大きな影響を与えることはありません。「何か社会的、そして経済的に正しいからと言って、それが環境保護の観点から見て間違っているということにはなりません。私たちは経済的配慮、環境保全に関する配慮、社会的配慮との間のバランスを維持しなければならないのです」。自動車業界が気候にやさしいグリーンモビリティへの移行を支援しつつ、同時に雇用を守ることを目指すべきだとデナーは指摘します。

AI・IoTは成長のチャンスーネットワーク化された製品をインテリジェントに

AIとIoTを組み合わせることで、ポッシュは数十億ユーロ規模の市場で地位を確立したいと考えています。革新的な [AI・IoTソリューション](#) を用いてエネルギーコストを削減し、快適性と安全性を高めることで、お客様にさらなるメリットをもたらします。ネットワーク化によって、ポッシュの製品がどのように使用されているかということに関する情報が生成されます。ポッシュはこうした情報をソフトウェアのアップデートを通じた使用感の向上や、新しい機能やサービスの基盤として活用したいと考えています。ポッシュはここ数年、技術的な前提条件を整えてきました。IoTスイートはデバイス、センサー、ゲートウェイを接続し、クラウドインフラがデータを処理します。さらに、AIプラットフォームは、AIアプリケーションの迅速なスケールアップを可能にします。

「次のステップは、技術的な専門知識をビジネスにすることです」とデナーは述べています。ポッシュはすでにネットワーク対応の電動工具、家電製品、ヒーティングシステムを約1,000万台販売しており、アクティブユーザーの数は増加傾向にあります。AI分野の専門知識を強化するため、ポッシュは2017年初頭にAIセンター(BCAI)を設立し、既に成果をあげています。BCAIは、設立からわずか3年で初期投資を回収し、業績に約3億ユーロ貢献しています。現在、BCAIは合計約270人のAIスペシャリストを

擁し、モビリティ、製造、スマートホーム、農業分野において 180 超のプロジェクトに携わっています。

約 1 万 7,000 人の従業員を擁する新事業部 [クロスドメイン コンピューティング ソリューション](#) は、ポッシュが AI・IoT 企業になるための道筋において重要な役割を果たすこととなります。「新事業部は、新しい車両電子アーキテクチャのためのハードウェアとソフトウェアの開発を集約しています」と、デナーは述べています。「これは、自動車のより高度なインテリジェンスがけん引する新興市場へと通じる入り口です」。ポッシュは、2020 年下半期だけでも約 25 億ユーロ相当の車載コンピューターの受注を獲得しました。今年にはさらに数十億ユーロ相当の取引が予定されています。

ポッシュは、すべての事業セクターで AI・IoT アプリケーションを開発しています。その一例として、赤外線を唯一の光源としながら、AI を利用して煙や炎を検知するビデオ式火災検知システム [Aviotech](#) が挙げられます。また、加工物を目視検査するためのアプリケーション・プラットフォームでは、AI を導入することで表面のわずかな傷も検出できるようになります。フィットネス・トラックでは、エッジ AI を搭載した新しい [自己学習型センサー](#) が、通信遅延と消費電力を最小限に抑えます。この場合、AI はセンサー自体で動作しています。

2020 年の事業セクター別業績

新型コロナウイルス感染症のパンデミックによりポッシュの各事業部門の売上高は減少し、消費財事業のみが増収となりました。**モビリティ ソリューションズ** セクターは、自動車業界の生産停止によって特に大きな打撃を受け、売上高は 423 億ユーロとなりました。これは前年比 9.5% の減少ですが、自動車生産が 15% 落ち込んだ市場を上回る伸びを見せました。為替調整後の売上高は 8.1% の減少でした。**消費財** セクターの売上高は 5.2% 増の 186 億ユーロとなりました。為替調整後では 8.2% 増でした。家電および電動工具事業が、消費者の間で住居環境を重視する傾向が強まったことの恩恵を受けました。**産業機器テクノロジー** セクターは、秋以降に受注が増加したものの、長引く市場の低迷の影響を免れることができませんでした。売上高は前年比 16.0% 減の 51 億ユーロで、為替調整後では 15.0% 減となりました。**エネルギー・ビルディングテクノロジー** セクターの売上高は 54 億ユーロでした。ヒーティングシステム事業は助成制度のおかげで好調に推移しましたが、多くのイベントが中止になったことで、会議・放送設備テクノロジー製品事業が打撃を受け、売上高は 3.4% 減、為替調整後では 2.0% 減となりました。

2020 年の地域別業績

ポッシュは、すべての地域で春の売上減少による影響を受けました。**欧州** の売上高は 380 億ユーロとなりました。前年比では 5.7% の減少で、為替調整後では 4.6% の減少でした。**北米** の売上高は 14.0% 減の 108 億ユーロで、為替調整後では 12.0% の減少となりました。**南米** の売上高は 11 億ユーロでした。これは名目ベースでは 21.0% の減少ですが、為替調整後ではわずか 2.5% の減少です。**アジア太平洋地域** の売上高は、前年比 1.4% 減の 217 億ユーロでした。為替調整後の売上高は 0.5% の増加とな

りました。市場の早期回復と中国での好調が寄与しました。中国での売上高は、ボッシュ史上初めてドイツでの売上高を上回りました。

2020年の従業員数の推移:雇用水準はおおむね安定

2020年12月31日時点で、ボッシュ・グループの総従業員数は全世界あわせて約39万4,500人でした。これは、危機にもかかわらず、おおむね安定した雇用水準を維持できたことを示しています。変化は主に中国とドイツで見られました。ボッシュは重要な戦略的投資を推進し続けることが出来るよう、研究開発部門における人員をわずかながら増員しています。

2021年の展望:危機からより強くなって立ち上がる

ボッシュは、世界経済は2021年に緩やかに回復すると予想しています。昨年は約4.5%のマイナス成長となりましたが、今年は4%弱の成長を見込んでいます。「危機は終わってはいません」と、アーセンケルシュバウマーは述べています。アーセンケルシュバウマーは、感染率の高止まりとそれに伴う社会的・経済的な制約だけが成長を阻むのではないという見解を示し、英国のEU離脱などの政治情勢や、貿易制限につながる可能性のある米中の戦略的競争の継続なども、世界経済の発展に影響を与えると説明しました。「課題は多いですが、私たちにとって重要なセクターや地域の市場を上回る力強い成長を達成することが目標であることに変わりはありません」。パンデミックの今後の展開とは関係なく、ボッシュは引き続き構造変化に対応するために必要な調整を、可能な限り社会的に認められる形で行っていく考えです。「徹底したコスト削減と競争力の強化を図ることで、有望な新分野の拡大に向けた健全な財務基盤を構築しています」。

報道用画像: #1857216, #2944462, #2935781, #692705, #1360997, #1371329, #3071535, #3271424, #1360999, #f1b09ab7, #524662

インフォグラフィック: #04a78928, #453f5978, #1601f579

報道関係対応窓口:

Sven Kahn 電話: +49 711 811-6415

Melita Delic 電話: +49 711 811-48617

世界のボッシュ・グループ概要

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2020年の従業員数は約39万4,500人(2020年12月31日現在)、暫定決算報告での売上高は716億ユーロ(約8.7兆円*)を計上しています。現在、事業はモビリティソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・ビルディングテクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュはIoTテクノロジーのリーディングプロバイダーとして、スマートホーム、インダストリー4.0さらにコネクテッドモビリティに関する革新的なソリューションを提供しています。ボッシュは、サステイナブル、安全かつ魅力的なモビリティを追求しています。ボッシュはセンサー技術、ソフトウェア、サービスに関する豊富な専門知識と「Bosch IoT cloud」を活かし、さまざまな分野にまたがるネットワークソリューションをワンストップでお客様に提供することができます。ボッシュ・グループは、AI(人工知能)を搭載する、もしくはAIが開発・製造に関わった製品を提供することで、コネクテッドライフを円滑にすることを戦略目標に掲げています。ボッシュは、革新的で人々を魅了する全製品とサービスを通じて生活の質の向上に貢献します。つまり、ボッシュはコーポレートスローガンである

「Invented for life.」人と社会に役立つ革新のテクノロジーを生み出していきます。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社 440 社、世界約 60 カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売／サービスパートナーを含むグローバルな製造・エンジニアリング・販売ネットワークは世界中のほぼすべての国々を網羅しています。ボッシュの未来の成長のための基盤は技術革新力であり、世界 126 の拠点で約 7.3 万人の従業員が研究開発に、約 3 万人がソフトウェアエンジニアリングに携わっています。

ボッシュの起源は、1886 年にロバート・ボッシュ (1861～1942 年) がシュトゥットガルトに設立した「精密機械と電気技術作業場」に遡ります。ロバート・ボッシュ GmbH の独自の株主構造は、ボッシュ・グループの企業としての自立性を保証するものであり、ボッシュは長期的な視野に立った経営を行い、将来の成長を確保する重要な先行投資を積極的に行うことができます。ロバート・ボッシュ GmbH の株式資本の 94% は慈善団体であるロバート・ボッシュ財団が保有しており、残りの株式は創業家であるボッシュ家、ボッシュ家の非営利活動法人ならびにロバート・ボッシュ GmbH が保有しています。議決権の大半はロバート・ボッシュ工業信託合資会社が保有し、株主の事業機能を担っています。

*2020 年の為替平均レート、1 ユーロ=121.8458 円で計算

さらに詳しい情報は 以下を参照してください。

www.bosch.com ボッシュ・グローバル・ウェブサイト (英語)

www.bosch-press.com ボッシュ・メディア・サービス (英語)

<https://twitter.com/BoschPresse> ボッシュ・メディア 公式ツイッター (ドイツ語)

www.bosch.co.jp/ ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト (日本語)

<https://twitter.com/BoschJapan> ボッシュ・ジャパン 公式ツイッター (日本語)

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック (日本語)

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式 YouTube (日本語)